

健やかな妊娠・出産・子育て期を支える 『産科スタッフのためのやさしい日本語』 研修プログラム

埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科 齋藤 恵子



埼玉県立大学研究開発センタープロジェクト 2023-1

「多文化共生社会における外国にルーツを持つ子育て世代への包括支援推進のための実践研究」

[研究組織]

研究代表者 齋藤 恵子（看護学科・教授）

（学内）

山口乃生子（看護学科・教授） 浅井宏美（看護学科・准教授） 森 美紀（看護学科・准教授）

千葉真希子（看護学科・助教） 林恵津子（社会福祉子ども学科・教授）

森 正樹（共通教育科・教授）

（学外）

武田裕子（順天堂大学大学院医学研究科医学教育学教授・医療×やさしい日本語研究会代表）

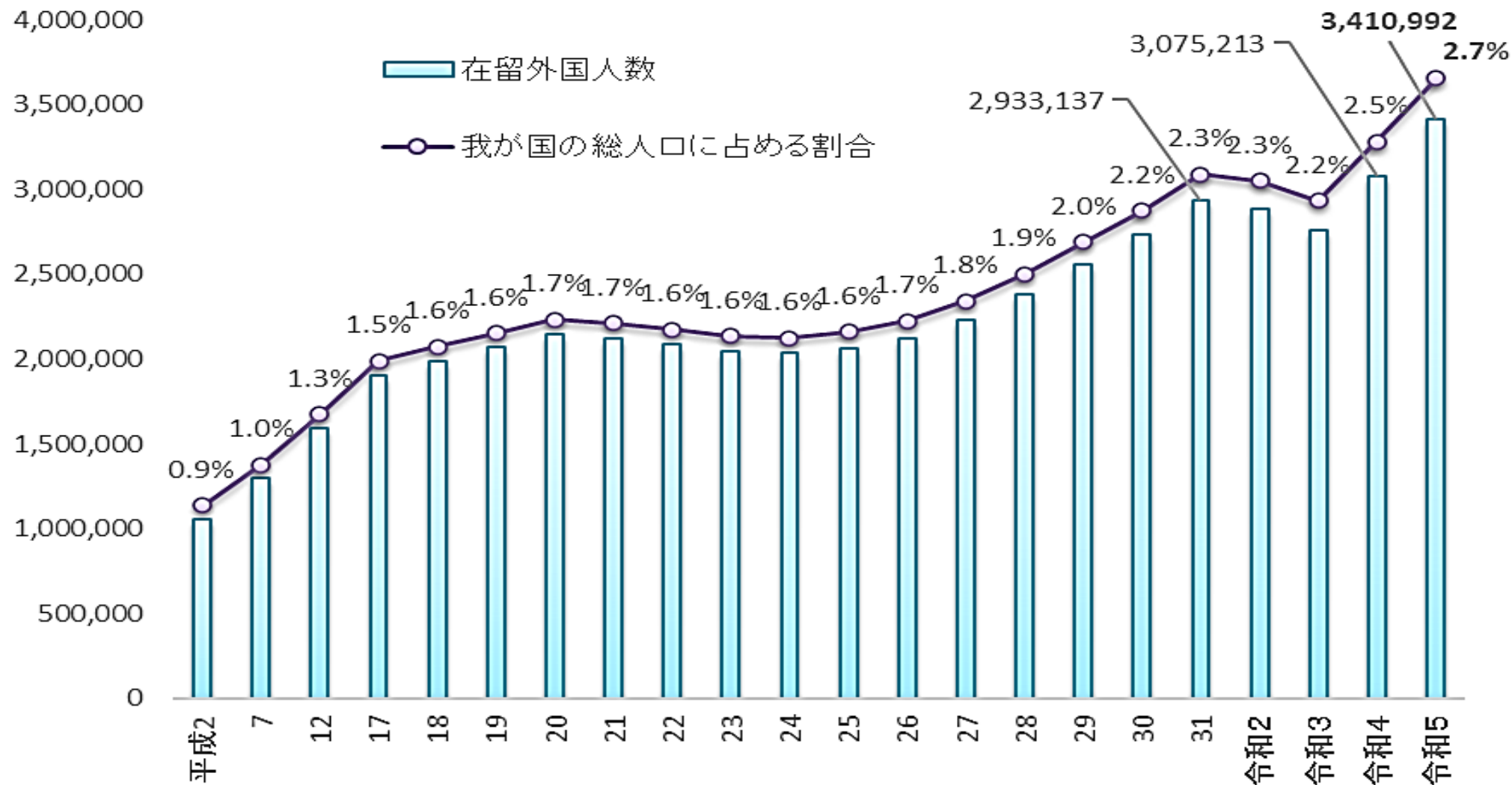
王麗華（大東文化大学スポーツ・健康科学部看護学科教授）

奥村裕子（一般財団法人多文化共生コスモ越谷理事）

仙部孝一（武里日本語教室事務局）

在留外国人数の推移

在留外国人：短期滞在や外交、公用を除く中長期在留者及び特別永住者



本数値は、各年12月末現在の統計である。

「我が国の総人口に占める割合」は、総務省統計局「国勢調査」による各年10月1日現在の人口により算出した。

日本における外国人の出生数

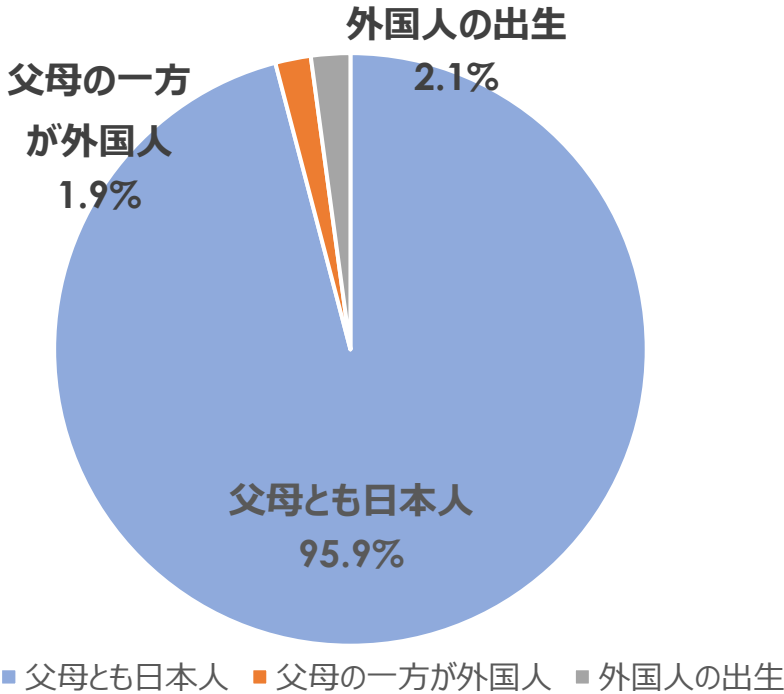
日本人とは：父母ともに日本人、父母の一方が外国人
外国人とは：両親とも外国籍のもの又は嫡出でない子のうち母が外国籍のもの

■ 親が外国人：4.0% ☆

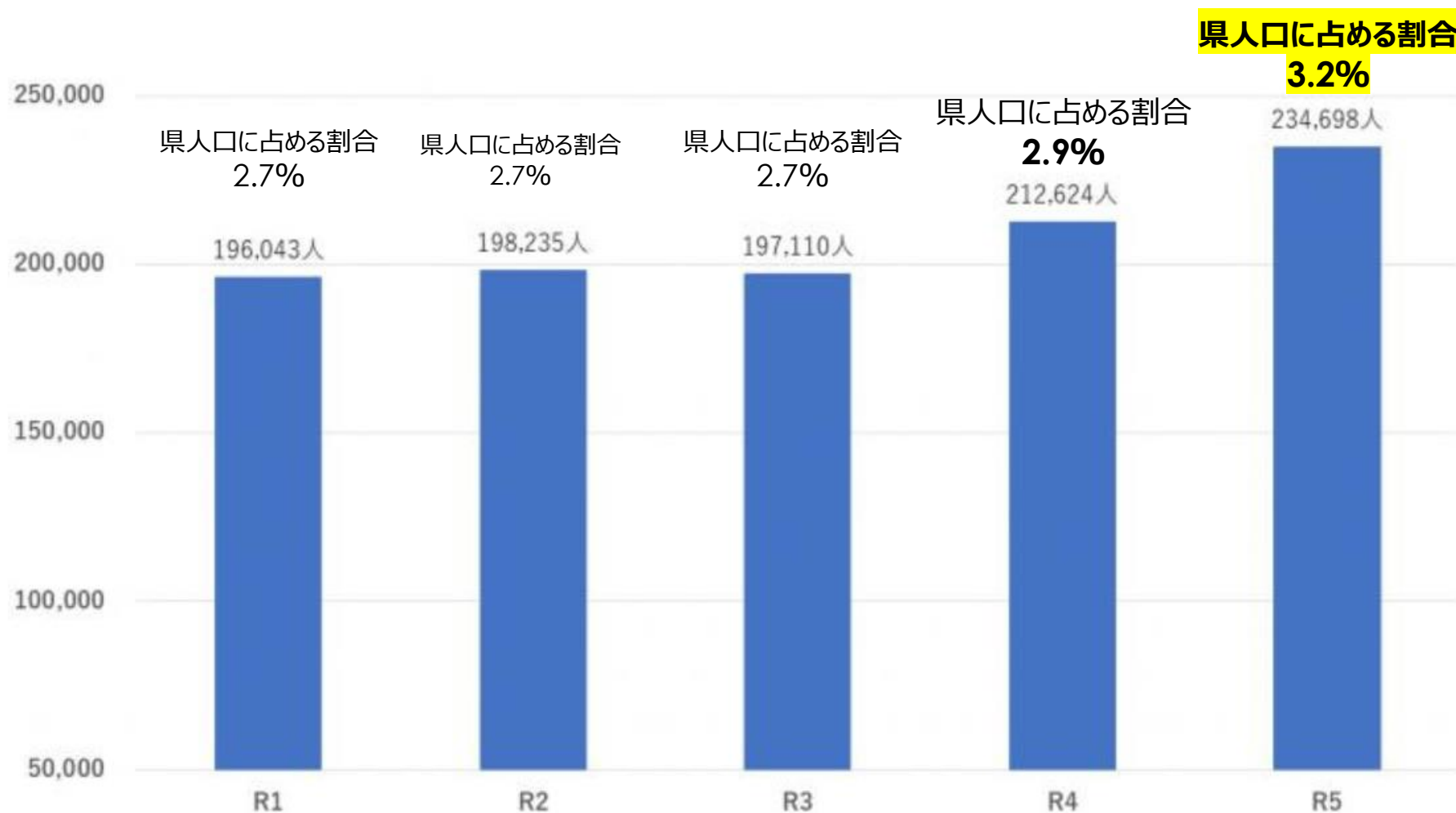
25人に一人の子どもは両親または 父母のどちらかが外国人

項目	人数(人)
父母とも日本人	755,488
☆ 父母の一方が外国人	15,271
うち父日本人・母外国人	6,737
うち母日本人・父外国人	8,534
日本人出生	770,759
☆ 外国人の出生	16,874
総数	787,633

人口動態統計令和4年（2022）より作図



埼玉県内の在留外国人



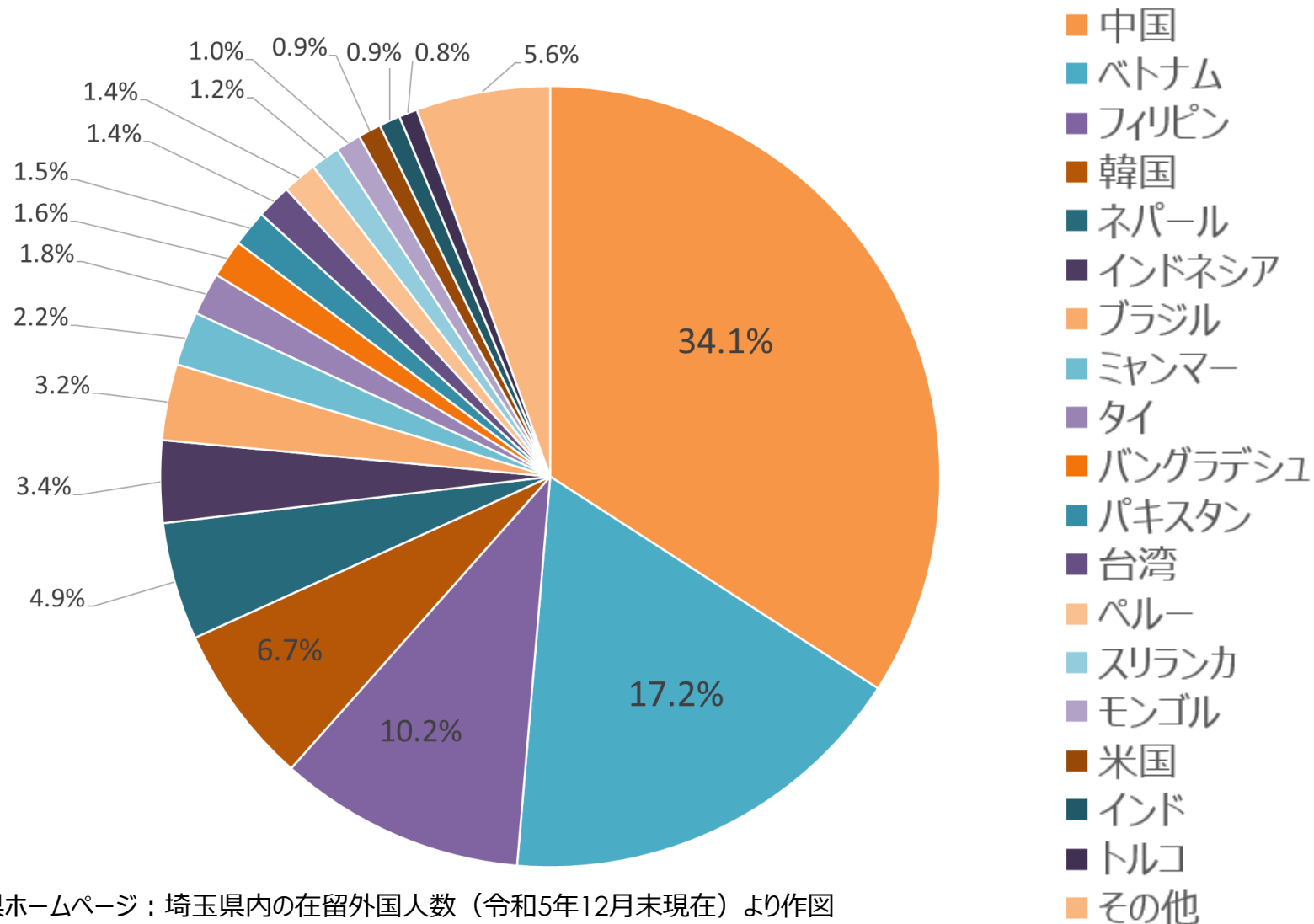
埼玉県ホームページ：埼玉県内の在留外国人数（令和5年12月末現在）について
<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0306/keikakutoukei/r5-12toukei.html>

埼玉県内の在留外国人

23万4698人

165か国

+ 無国籍



埼玉県ホームページ：埼玉県内の在留外国人数（令和5年12月末現在）より作図
<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0306/keikakutoukei/r5-12toukei.html>

外国人の妊娠・出産時の困難

■言葉が通じない・言葉が分からない

孤独感や疎外感、不安感、危機感

(藤原、堀内、2007) 、(梶間、2013)

■母国と違う文化に戸惑う

葛藤やジレンマなどの困難を経験している

(鶴岡、2008)

■分娩後の不安やうつ傾向が高い

(石、石ら、2004)

やさしい日本語とは

■定義

「やさしい日本語」とは、日本語を母語としない人や、日本語に不慣れな人にも伝わりやすいように、言葉をわかりやすく言い換えた日本語のこと。」（文化庁・出入国在留管理庁 2020）

■ポイント

短く話す（1文を短く、シンプルに）

簡単な言葉を使う（専門用語や難しい言葉を避ける）

ゆっくり話す（相手の理解のペースに合わせる）

ジェスチャーや絵を使う（視覚的に伝える）

■例

土足厳禁 → くつを めいで ください。

食欲はありますか？ → ごはん、しっかり たべられて いますか？

※言葉を交わしてみても、

やさしく話しても意思疎通が難しいと感じた場合 → 通訳や機械翻訳の利用に切り替える

日本語能力が非常に高いと判断した場合 → やさしい日本語はやめる

優しい
やさしい

プロジェクト概要 （2023年-2024年）

目的： 健やかな妊娠・出産・子育て期を支える『産科スタッフのためのやさしい日本語』研修プログラムの開発

3ステップ

1. 保健医療従事者（助産師）を対象とした調査
2. 日本で妊娠・出産を経験した外国人女性を対象とした調査
3. 「やさしい日本語」研修会の実施および評価

保健医療従事者（助産師）調査

【研究目的】 産科スタッフの妊娠・出産・産後における、「やさしい日本語」のニーズを明らかにする。

【対象】 県内助産師職能団体会員

【方法】 無記名Webアンケートフォームによる量的研究

【調査期間】 令和5年10月～11月

【倫理的配慮】 本研究は埼玉県立大学研究倫理委員会の承認を得て実施（23094）

保健医療従事者（助産師）調査

「やさしい日本語」が必要な理由

■ 外国人妊産婦と接する機会の増加

- 外国人妊産婦と接する機会が多いため
- 共通語が日本語の外国人ママとの関わりが多いため

■ コミュニケーションの課題と期待

- 伝わらない、意思疎通に苦慮するため
- やさしい日本語はどのような人にも使える
- やさしい日本語を使えば話しやすい

■ 誰一人取り残さない

- 国籍関係なく支援を受ける権利がある
- 自分の仕事においてケアを提供する責任があると考えから

伝えるのが難しい言葉

■ 助産ケア・治療・処置

- 妊婦健診・悪露・内診・検査の説明
- 子宮収縮剤など必要な内服の説明
- 専門用語（破水、出血、陣痛の変化）など

■ 保健指導

- 分娩の経過や入院を勧める時期（破水、出血、陣痛開始）
- 自律授乳、乳房の観察
- 授乳間隔、人工乳の必要性、人工乳の作り方、添い寝の注意点
- 子どもの成長
- 行政手続き、など

日本で出産経験のある 外国人女性のインタビュー

【研究目的】 日本語母語としない外国人住民の困難と対処ニーズを明らかにする。

【対象】 日本語を母語としない日本で妊娠・出産を経験した女性

【方法】 フォーカスグループインタビューによる質的研究

【調査期間】 令和5年8月

【倫理的配慮】 本研究は埼玉県立大学研究倫理委員会の承認を得て実施（23044）

日本で出産経験のある外国人女性のインタビュー

項目	A	B	C	D	E	F
出身国	モンゴル	ベトナム	ミャンマー	ミャンマー	ナイジェリア	ナイジェリア
日本での出産回数	2回	2回	1回	2回	1回	3回
日本で出産した時期	6年-10年前 1年未満	11-15年前	6-10年前	6--10年前	1年未満	1-5年前 6-10年前
日本での出産場所	診療所	総合病院	総合病院	診療所	診療所	診療所
母国での出産経験	無	無	無	無	無	無
年齢	30代	40代	40代	40代	40代	40代
パートナー	モンゴル	日本人	ミャンマー	ミャンマー	ナイジェリア	ナイジェリア

日本で出産経験のある外国人女性のインタビュー

■困った言葉

- 妊婦さん
- 分娩
- 母乳
- 陣痛
- 破水
- 会陰切開・縫合（溶ける糸を使用していることが分かりにくい）
- 検査項目

■困ったこと

- いつ病院に行くべきか分からなかった
- 検査結果を読めなかった
- 陣痛が怖かった
- どんなサポートがあるかわからない
- 相談できる人がいない
- 食べられない食材を伝えられなかった



日本で出産経験のある外国人女性のインタビュー

■ 言葉の要望

- 「やさしい日本語」で説明してほしい
- イメージの指差しシートを活用した説明
- 陣痛の説明の紙（説明）を見ても分からない
- 通訳者の配置
- 多言語対応の説明を準備して欲しい

■ 病院の体制・制度

- 言葉が出来ないと病院から通院（妊婦健診）を断られた
- サプリメントを日本ではもらえない（母国では鉄剤、ビタミン剤が処方される）
- 出産後4日で勝手に帰ったら、病院から連絡がきた

産科スタッフのための「やさしい日本語」研修

【研究目的】「産科スタッフのためのやさしい日本語研修」の効果を評価し、その結果を基にプログラムの改善点を明らかにすることを目的とする

【対象】 研修参加者で研究参加に同意が得られた参加者

【方法】

- ① 前評価: 「やさしい日本語」に関する知識や使用度、態度を評価するためのアンケート
- ② 直後評価: 研修終了後、同様のアンケートを再度実施し、研修の即時効果を評価
- ③ 3か月後評価: 3か月後に同様のアンケートを実施し、中長期の効果を評価
- ④ 6か月後評価: 6か月後に半構造化インタビュー、研修の実践的な影響や参加者の意見・感想を収集

【倫理的配慮】 本研究は埼玉県立大学研究倫理委員会の承認を得て実施（23128）

2023年度 埼玉県立大学 研究開発センタープロジェクト

産科スタッフのための 「やさしい日本語」研修

日本に住む在留外国人は、320万人を超えて過去最多と言われています。

本研修では、日本語を母国語としない模擬患者とのロールプレイングを通して、「やさしい日本語」の使い方を学びます。

2023年 12月16日(土)

9:30~12:00

会場: 埼玉県立大学 南棟102実習室



対象・人数 県内に在住または在勤されている看護職の方、30名

講師 奥村 裕子氏 (一般社団法人多文化共生コスモ越谷 理事)
齋藤 恵子 (埼玉県立大学看護学科准教授)
協力者: 地域に住む日本語を母国語としない方々

受講料 無料

応募方法 応募フォームURL、または右下QRコードよりお申込みください。
<https://business.form-mailer.jp/fms/6f4d4ffa217159>

応募締切 12月4日(月)16時まで、但し先着順



(同内容の研修を2月17日(土)同時間で開催予定、1月募集開始)



〒343-8540 埼玉県越谷市三野宮820
研究開発センター 事務局

TEL : 048-973-4362 (平日: 9:00~16:00) E-mail : research_c@spu.ac.jp

2023年度 埼玉県立大学 研究開発センタープロジェクト

第2回

産科スタッフのための 「やさしい日本語」研修

日本に住む在留外国人は、320万人を超えて過去最多と言われています。
本研修では、日本語を母国語としない模擬患者とのロールプレイングを通して、「やさしい日本語」の使い方を学びます。

2024年 2月17日(土)

9:30~12:00

会場: 埼玉県立大学 南棟102実習室



対象・人数 看護職の方、看護学生 30名

講師 奥村 裕子氏 (一般社団法人多文化共生コスモ越谷 理事)
齋藤 恵子 (埼玉県立大学看護学科准教授)
協力者: 地域に住む日本語を母国語としない方々

受講料 無料

応募方法 応募フォームURL、または右下QRコードよりお申込みください。
<https://business.form-mailer.jp/fms/6f4d4ffa217159>

応募締切 2月12日(月)16時まで、但し先着順



産科スタッフのためのやさしい日本語研修プログラム開発に向けた研究の一環として実施しています。
研究趣旨は当日にご説明いたします (研究参加の同意がなくても参加可能です)



〒343-8540 埼玉県越谷市三野宮820
研究開発センター 事務局

TEL : 048-973-4362 (平日: 9:00~16:00) E-mail : research_c@spu.ac.jp

■研修内容

講義：「文化・宗教に配慮した『やさしい日本語』」

ロールプレイ：外国人模擬患者と対話

場面①：妊婦健診（切迫流産の妊婦対応）

場面②：産後2日目の褥婦対応



■研修前

- ・ 助産師の76.2%が「やさしい日本語」の学習経験なし。
- ・ 78.6%が外国人妊産婦とのコミュニケーションに困難を感じていた。

■研修の効果

- ・ 理解度の向上 : 「とても理解できた・だいたい理解できた」69.3%
- ・ 現場での活用意向 : 「やさしい日本語を使いたい」100%
- ・ 現場の変化 : わかりやすい言葉に変換する試み
: 国別指差しボードの作成
: 研修後、患者に安心感を与えやすくなった

■今後の課題

緊急時の対応方法も学びたい、職場全体での活用、異文化に配慮した対応の強化

まとめと今後の展望



■まとめ

- 「やさしい日本語」は、外国人患者との円滑なコミュニケーションを支援し、医療現場での理解度向上に役立つと考えられる。
- 助産師調査では、言語の壁や産科特有の専門用語が課題であることが明らかになった。
- 外国人妊産婦調査では、医療文化の違いや孤立感が課題として挙げられ、「やさしい日本語」の活用が求められた。
- 研修プログラムの実施では、参加者の知識やスキル向上が確認され、患者との信頼関係構築に寄与する可能性が示唆された。
- 研修参加者は「やさしい日本語」の実践を通じ、より適切な対応が可能となると評価した。

■今後の展望

- 研修内容のさらなる改善や緊急時対応を含めた学習機会の提供が必要。
- 研修後のフォローアップを強化し、現場での実践や課題を継続的に評価。
- 医療現場だけでなく、地域での実践を推進し地域の支援者が「やさしい日本語」を活用できる環境を整える。
- 行政や地域との連携を強化し、多文化共生社会の実現に貢献したい。

本研修は埼玉県立大学研究開発センタープロジェクト 2023-1
「多文化共生社会における外国にルーツを持つ子育て世代への包括支援
推進のための実践研究」として実施しました。

ご協力くださった全ての方に感謝申し上げます。

